

「巻機山の家」

吉田光二

山の家の場所

標高 755 m。巻機山の数ある山小屋の中で、ニセ巻の避難小屋を除いて一番高いところに位置しています。米子沢を渡りヌクビ沢コースを分けて、尾根コースの入り口から車道をすすんだ蕎麦畑の中ですから、普段は誰も寄り付かず静かにたたずんでいます。ところが残雪期になると井戸尾根に取り付くメイン・ルートにあたりますので、付近はテント村ができたり休憩するパーティがいたり、週末には売店が開けるほどの賑わいとなります。

会員制の山小屋

「巻機山の家」は 1967 年竣工ですので今年で築 39 年。個人会員制で雲天の父ちゃんも会員です。この間、1986 年に会員の再登録と大規模な増改築を行い、昨年、補強工事を行いました。

正会員は現在 48 名。入会金は 20,000 円で年会費が 2,000 円。会員とその家族、会員が引率する高校生は無料で使用できるという決まりになっています。

1984 年から私が事務局を担当し、私の勤務する新潟県央工業高校（旧・三条工業高校）の山岳部員と OB が中心的な作業部隊となっています。

中身はシンプルで薪ストーブがあるだけ。用具は利用者が持ち込むことになっています。玄関先には 400 m のポリホースで引いた清水が常に流れ出ていて、立ち寄って汲んで行く人もいます。この水と薪ストーブが山の家の財産です。

2004年10月 中越地震

2004 年 10 月 23 日。中越地震の時、山岳部の OB たちが山の家に入っていました。夕方、入山したとの報告電話をもらって間もなくの地震でした。私の住む三条市が震度 5 強でしたから「きっと山の家は潰れたに違いない」と「あきらめて」自分の家の対応に追われていたのですが、深夜になって「自分たちも山の家も無事」と電話が入りました。巻機山は硬い岩の上にある山ですから地盤がしっかりとしているようです。彼らは翌日、長野経由でまるまる 1 日かけて帰ってきました。無事で何よりでした。でも、あきらめていたことは彼らにはナイショです。

2005年冬 10年ぶりの大雪

10 年ぶりの大雪といわれた昨年 2 月、母ちゃんから電話があり、「ものすごい雪で小屋まで手がまわらねすけ、雪かきに来てくんねかい」というものでした。例年、連休を使って行くことにしていましたからノコノコと出かけて行きました。高速道路の除雪が間に合わず、思った以上に時間がかかって山の家到着は日暮れになってしまいました。

見れば「なるほど！」の大雪です。玄関から入ることをあきらめて二階のベランダから入ることにして掘り出しますが、これもかなり難儀して、真っ暗闇の中でようやく入ることができました。ストーブを燃やす係、夕食を準備する係、玄関と水を掘り出す係と分担して作業を急ぎますが、ストーブがなかなか燃え出しません。それが、玄関を掘り出して戸を開けた途端に勢いよく燃え出しました。・・・ということは雪に埋もれていたための酸欠状態だったようです。

ようやく人心地ついてキョロキョロしてみると壁のクラックが広がったり増えたりしている感じです。地震には耐えてくれたものの、大雪を屋根に載せたままでの生活の始まりです。ストーブが燃えるにしたがって「ミシッ」と音がします。その度に目は梁にクラックに。万一に備えて体はできるだけ壁際に置くことにし、二階で泊まる生徒たちに「むやみに動くな！騒ぐな！！」と注意。この時に補強工事を決意したのはいうまでもありません。

2005年夏 補強工事のこと

築 40 年になろうとする山の家を大雪の中でも安心して暮らせるようにと、一階に柱を増強。併せて屋根・壁の塗装と、有り金叩いてしっかりとやり直しました。大雪も心配ですが、雪が少ない時もそれなりに建物は傷みつけられるものです。会員に工務店のオーナーがいることが何よりで、この建物をなんとかここまで維持してこられたのもそのおかげです。また山の家にとっては生徒たちもありがたい労働力です。雲天の蕎麦がご褒美の小屋仕事でしっかりと賡けられた生徒たちは、2004年7.13水害で学校が水没した時に大活躍し、被災地域のボランティアでも多くのお褒めの言葉をいただきました。まさに「山家育ち」です。

2005～2006年冬 20年ぶり？の大雪

20年ぶりというのはマスコミが言っていることで正確かどうかは分かりませんが、今季の大雪との付き合いは11月19日から始まりました。降雪中、雲天に着いたところが玄関前で積雪30cm。山の家まで上がれるどころではありません。山の家目指して車を飛ばしてくる予定の会員・OBに「来るんだったらスノータイヤで。泊まりは雲天」と緊急の電話連絡です。トラックで薪を運んでくる予定もキャンセルです。

なんとか歩いて登って、冬囲い・冬支度を手早く済ませて雲天に下りました。この時、山の家前では膝までの積雪になっていました。山の家泊まるはずだった生徒たちは雲天に泊めてもらい大喜び。現役で雲天泊まるのは初めてのことでした。

これ以降、雪は降り続けて記録的な大雪になりました。そして2月11日、雪掘りです。山の家前で4.5m。山側は屋根がすっぽり埋まっていたから6mはありそうです。雲天に戻って、「巻機に通って36年になるけど一番多いね」と母ちゃんに言ったところが、「おら、50年で一番いっぺら」と返ってきました。

煙突が潰されるなど若干の被害はありましたが、父ちゃんの実力でなんとか持ちこたえることができそうです。

山の家周辺は、例年、3月下旬になると新潟県内の高校山岳部の春山合宿でテント村ができます。雪深い中でも、今年も春はもうすぐです。

(2006年 雲天友の会発行 雲天通信掲載)

写真説明

晩秋の山の家

山の家と春のテント村

2006年2月の雪掘り

